

享保五年子二月

紀伊殿役人  
小林奈八郎印

〔川船書〕尾州船之事

尾

尾張殿江戸に而大小手船之分は右之極印打船印も如此立申候、右之外當分用事有之節は、商人船遣申儀御座候、其舟には丸之内尾之字印立申候、以上

享保五年子五月

尾張殿役人  
近藤安右衛門印

覺

尾張殿手船之儀は、向後白地に、文字朱に而尾之字、商船雇用事達候節は、紺地、丸に尾之字白付申候。

子五月

〔川船書〕水戸船之事

丸ニ水

一中將殿手船之分は江戸并水戸領内共に、不限何船、右之極印打舟印如斯に仕候、

一水戸領内商人船、右之極印打丸之内に小之字印立申候、

右之通御座候間、向後御改之節、改を請候様に申付候、以上

水戸殿役人

柴田源助印

享保五年子二月

藤咲傳之允印

〔甲子夜話 四十三〕第三十八卷ニ、琉球ノ使、東都へ參向ノコトヲ録ス、ソノトキ薩侯ハ、陸路ヨリシテ豊前ノ大里ニ抵リ、琉人ハ海路ヲ經テ赤間關ニ赴ク、ソノ道予浦清松ガ城北ノ迫戸ヲ過グ、因テ外廓ニ出テ船行ヲ望ム、略○中キク薩摩ノいろは船トテ、四十八ノ船アリテ、いろはノ文字ヲ旗ニ